



「年報いわみざわ」の刊行によせて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡路, 市郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9011

「年報いわみざわ」の刊行によせて

北海道教育大学長 岡路市郎

「教員養成は大学でおこなう」という原則は、戦前の教員養成制度の批判と反省にたって提起された戦後教育改革の輝やかな理念のひとつであった。爾来30年、教員の養成はいわゆる開放制のもとですべての大学がこれにかかわりをもってきたが、特に教育系大学・学部はその養成の中核的な機関としての重責を担ってきた。顧みて、果たして当初の理念を正しく具現しえてきたか否か、一抹の不安なきをえない。

われらが大学は先輩各位のたゆまぬ努力によって、逐年大学としての体制を着実に整えてきたといえるが、なお予算、定員、施設・設備、教育・研究組織等の面で残された問題も多く、一層の改善、充実を願わずにられない。

ところで、現行制度のもとでは、自由な発想にもとづく個性ある大学づくりを現実に行ないうる余地は必ずしも大きいとはいえず、という意見がある。特に教育系大学・学部の場合において、その感が強いという声がある。同感の念を禁じえない面があるが、また反面、大学自らの反省にたって、自主的で自由な改善への熱意と努力を一層振起させる必要もあると思われる。

岩見沢分校は、本学のさだめた新たな方針に則り、小学校教員の養成を主たる目的とする分校として、今年度からその体制づくりを進めることになった。そのための教育・研究組織の改善、小学校教員養成のための教育課程の改訂等、重要でしかも困難な問題が多くあるが、国大協、教員養成制度特別委員会の「大学における教員養成について」(52. 11)、教大協、教員養成制度委員会の「中間まとめ」(54. 6)をはじめとする多くの資料を渉猟しながら、そのあるべき姿をもとめて精力的に検討を重ねておられる各位の熱意と努力に、大きな期待をかけるとともに、改めて心からなる敬意を表す。

ピーク制の問題、教科専門と教材研究のあり方、教育実習のあり方、大学教育と現場教師との共同研究体制の問題、さらに入試のあり方等における改善の試みや検討の成果は、他の4分校の小学校課程の運営にも、新鮮な刺激材料を提供することになるであろうことが期待される。そしてやがて、それらが全学的な課題となって検討され、大学全体の改善にもつながる日の到来することを切に願うものである。

本誌「初等教育・教師教育研究」は、ささやかな予算の捻出によってスタートする小冊子ではあるが、この背後には今後全教官の改革への熱い志が秘められていることを想い、その刊行に心からなる敬意と祝意を表したい。

読者諸賢の御批判を賜われれば幸いである。